

# 一般社団法人桶川青年会議所 2025年度 運営方針

一般社団法人桶川青年会議所  
第52代理事長 中島 隆寿

## RETURN

### —三方よしでワクワクを生み出す街づくり—

新型コロナウイルスによる脅威が徐々に収束し、私たちの日常生活は少しずつ戻りつつあります。オンラインでしか開催できなかった例会や会議も、再びオフラインで行えるようになり、コロナ前の穏やかな生活に近づいていると言えるでしょう。

しかし、世界を俯瞰してみると、依然として不穏な情勢が広がっています。各地で政治的な緊張が続き、残念ながら戦争に発展している国も存在します。日本国内では人口減少と少子高齢化がもたらす人手不足や内需の減退といった問題が山積しています。さらに、SNSの普及に伴う価値観の分断や、情報・貧富の格差など、さまざまな要因が重なり、先行きの見えない不安定な世界に突入しているのです。

今までの常識やノウハウが通用しなくなりつつある中で、私たちは新たな課題に直面しています。これからの時代には、柔軟な思考とリスクを伴う行動力が求められることでしょう。初めての問題にどのように対処していくのか、その姿勢が今後の鍵となるのではないのでしょうか。

#### <JCの目的の原点に回帰する>

高度経済成長期の日本では、モノを作れば売れる時代が続いていました。しかし、現在はモノを作っても売れない「モノあまり」の時代です。各企業は製品の品質向上やマーケティングに最大限の投資をしていますが、それでも日本のGDPは横ばいが続き、厳しい状況が続いています。

また、SNSの普及により、情報が個人に最適化され、自分が属するコミュニティも狭くなっています。その結果、自分本意な価値観にだけ触れる機会が増え、旧来のマネジメントが通用しなくなりつつあるのではないのでしょうか。さらに、テクノロジーの発展によるマーケティング活動の多面化がビジネスの複雑化を招き、そこに人手不足や世界的なインフレーションが重なり、未曾有の事態に直面しています。

このような状況の中で、強く求められているのがリーダーです。リーダーとは、目標達成や課題解決のためにメンバーを束ねる人のことです。しかし、複雑な現代においてリーダーの役割はそれだけでは足りません。何が問題なのかを把握することすら難しい状況で、冷静に分析し、自ら目標を設定し、達成に向けて試行錯誤を重ねる必要があります。そして、課題解決のために周りのメンバーの共感を得て求心力を保ち、メンバーが主体的に行動できるように導く「真のリーダー」が求められています。

とはいえ、このような「真のリーダー」を養成する場所が非常に少ないのが現状ではないのでしょうか？しかし、青年会議所こそが「真のリーダー」を育成できる場です。なぜなら、青年会議所は明るく豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱を持った青年有志によって設立された組織だからです。

桶川JCでどれだけ「真のリーダー」を輩出できるかは、桶川市の活性化に大きく関わってくることは

言うまでもありません。特に中小企業においては、一人のやる気に満ちた「真のリーダー」が入社するだけで、生産性が大きく変わります。今年度の桶川JCでは、改めて青年会議所の原点に立ち返り、一人一人が「真のリーダー」になるための運動を推進していく所存です。

#### <街への還元>

青年会議所の目的は、街づくりです。具体的には、街の問題点を見つけ出し、それを解決することで、より住みやすい環境を整えることを目指しています。そして、桶川市民が少しでも「桶川に住み続けたい」と思い、誇りを持てるような取り組みを行うことが私たちの使命です。しかし、現状では「桶川市に住み続けたいと思う子供の割合」がわずか11.5%にとどまっており、これは深刻な問題です。

この数値を改善するためには、桶川市の子供たちが地域に誇りを持てるような、ワクワクするイベントの企画や街の活性化が不可欠です。魅力的な企画を実現するためには、日々街の問題を探り、既存の枠組みにとらわれずに「どうすれば面白いことができるか」を考え、失敗を恐れずに行動することが重要だと考えています。

また、街の活性化には、商業団体や商店街など他の団体との連携も必要です。地域の商店の魅力を再考し、共に盛り上げる場を提供することが求められます。街づくり委員会では、桶川の子供たちが地域に誇りを持てるようなワクワクするイベントをどのように実施するか、他団体と連携し、地元のサービスによるお金の流動をスムーズにする方法を日々考え、実行していきます。

また、教育広報委員会においては子どもたちの夢の実現をサポートするようなワクワクする学びを提供し、桶川市だからこそ面白い教育が受けられるというようなイメージを持ってもらえるように、魅力的な講演会やセミナーなども実施していきます。

これらにより、地元桶川の街に還元できる組織運営を目指します。

#### <メンバー個人の誇りと成長の最大化>

現在の桶川JCのアクティブメンバーは15名ほどになります。毎年、会員数増加を掲げて活動しており、実際に増加傾向にはありますが、非アクティブ化してしまうメンバーが多いのも現状です。この非アクティブ化の原因として、JC活動に対する意義ややりがいを感じられないこと、JCメンバーとしての誇りを持っていないこと、そしてJCの活動が自身の成長につながっていると実感できていないことが挙げられます。

そこで、今一度、JCの目的をしっかりと見つめ直すとともに、教育広報委員会を中心にJC活動の発信を強化します。これにより、より多くの人々に桶川JCの活動を知ってもらい、参加者が最大限に満足できる例会を実施することで、ロイヤリティを高めます。そして、SNSを中心にJC活動に関する口コミを普及してもらうことで、メンバーがやりがいを再認識できる環境を整えます。さらに、認知拡大を実感することで、先輩方が52年にわたって築いてきた桶川JCの歴史とその偉大さを再認識し、誇りを持てるようにします。

また、メンバー自身の成長に繋げるには、委員会活動や例会を通じてメンバーが自ら積極的に行動していくことが求められます。そのためには、組織運営を見直し、委員会活動を活発化し、例年行なってい

る事業だけではなく、新規事業を多数開催することにより、結果として個人の成長を最大化できるような取り組みが必要です。

さらに、人材育成委員会においては、スキルアップ研修やメンバー向けの講演会などを多数実施することで、インプット面からの強化を図ります。今年度は一時的な会員拡大は目指しません。若い世代も含めて持続的にアクティブメンバーが増えていく仕組みを構築し、有機的な結びつきのある強力な組織を確立します。そして、街づくりのために質の高い問題解決を行い、切磋琢磨しながらすべてのメンバーが成長できる環境を整え、「桶川J.C.に入会してよかった」と感じられるような組織を作り上げます。

<むすびに>

活気ある街づくりを推進するためには、「真のリーダー」を増やし、地域の問題を発見し、適切な手段で解決していくことが不可欠です。桶川J.C.では、単にリーダーになるだけでなく、周囲の人々も主体的に行動できる人材へと育成し、求心力を持って最適な問題解決に取り組む「真のリーダー」を輩出していきます。

そのためには、まず桶川J.C.のメンバーであることに誇りを持ち、マーケティングやブランディングの知識をしっかりと高めることが重要です。なぜなら、「真のリーダー」になるためには、自信を持つことと、周囲のメンバーに共感を得て行動を変容させる力が求められるからです。

自信を持つことで、リスクを伴う行動にも挑戦できるようになり、発信力が高まることで周囲のメンバーの共感を得られます。これにより、個々の強みを活かしながら、一人では実現が難しい高い志を達成する可能性が広がります。そして、発信力が向上し、マーケティングやブランディングのスキルが磨かれることで、地域課題を解決するための充実した例会を実施できるようになり、地域の方々にも喜んでいただけます。その結果、良い口コミが広まり、桶川J.C.のさらなるブランディングが進むのです。こうした循環が生まれることで、メンバーは自信を深め、桶川の街をさらに活性化する「真のリーダー」へと成長・進化していきます。

科学技術がどれほど発展しても、街は人々によって成り立っているのです。一人でも「真のリーダー」がいる組織は、生産性が大幅に向上します。今年度は青年会議所の理念に立ち返り、最適な街づくりを進める中で、メンバーには大きな成長を遂げてもらいます。これにより、桶川J.C.への入会者も増加し、「真のリーダー」が増え、街が活性化するという好循環の基盤を築く年度にします。

桶川青年会議所の偉大な歴史を創った先輩諸兄姉を始め、市民の皆様、行政、そして関係諸団体の皆様の多大なるご支援とご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。また、温かいご指導とご鞭撻を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

## 事業計画

1. 組織体制の厳格化によるさらなる質の向上
2. 新規入会を加速する仕組み作り、メンバーの定着化
3. 街づくり・修練の場としてのブランド浸透策の展開
4. 個人の成長を最大化する例会・研修の実施